令和８年９月10日　記者発表

R８．９．10

それでは、ご報告を申し上げます。

私は、市長就任以来、「子どもが真ん中で輝くやさしいまち“今治”」の実現に向け、「今治版ネウボラ」を重点施策として取り組んでまいりました。その原点にありますのは、市民の皆さまから直接いただいた声にほかなりません。

「天候に左右されず安心して遊ぶことができる場所がほしい」

「子育ての悩みを、気軽に相談できる場所がほしい」

「子育て世代の皆さまがゆったりと集い、仲間同士の交流を通じて学び、安らげる場所がほしい」

こうした切実な思いを受け、改めて子育て支援の現場を見つめ直しますと、保健センターや発達支援センターな

ど、子育てに関わる施設が市内各所に点在し、利用者の皆さまにご不便をおかけしている現状がありました。

「これを、なんとかしなければならない」

この思いこそが、ネウボラ拠点施設整備の原点でございます。

申し上げるまでもなく、子どもは地域の宝でございまして、今治の未来そのものです。子どもたちが目を輝かせて遊び、学べる場所、そして、お父さん、お母さんが何でも相談でき、安心してお子さんと過ごせる場所。その実現こそが、私の公約の１丁目１番地でございました。

市民の皆さんとともに歩みを重ね、およそ６年。本日、ようやく「子育ての理想郷」へのスタートラインに立つことができ、万感、胸に迫る思いでございます。

これまでの経緯といたしましては、令和４年度から「こどもが真ん中親会議」や市民アンケートを通じ、子育て世

代や中高生の皆さんの生の声をお聴きし、令和５年３月に基本構想を策定。

　その後、子ども・子育て会議や、パブリックコメント、市民ワークショップなど、幅広い世代との意見交換を重ね、令和６年５月に基本計画を策定させていただきました。

　本年１月 30 日に民間のノウハウを最大限に活かすＤＢＯ方式による事業者公募を開始し、いよいよ本日、優先交渉権者の決定について市民の皆さんにご報告する運びとなりました。

　それでは、ここで優先交渉権者を発表させていただきます。

　本日ご同席いただいております、代表企業である株式会社合人社計画研究所をはじめ、構成企業を加えた、計８社で構成されるグループでございます。

　「合人社グループ」と呼ばせていただきますが、設計・

建設部門といたしまして、株式会社 梓設計関西支社、株式会社 乃村工藝社、株式会社 矢野青山建築設計事務所、株式会社 合田工務店、四国通建 株式会社、株式会社 野間工務店。維持管理・運営部門といたしまして、株式会社 合人社計画研究所、アクティオ 株式会社がそれぞれ担っていただくことになっています。

設計・建設から維持管理・運営まで、それぞれの分野で豊富な経験と実績を持つ企業が結集し、地元企業にも参画いただき、今治の子育てを支える施設にふさわしい提案をいただきました。

選定にあたりましては、選定委員会において、提案内容と価格の両面から公平・厳正な審査を行い、８月 27 日のプレゼンテーション・ヒアリング審査を経て、合人社グループが最優秀提案者とされたものでございます。

契約予定額は、設計・建設費に加え、完成後 14 年９か月間の維持管理・運営費を含め、税込み 90 億 8,600 万円。

スケジュールといたしまして、令和９年１月から、設計や既存施設の解体などに着手、令和 10 年７月頃に本体施設の建設を開始、令和 12 年３月の竣工、同年７月の供用開始を目指していただきます。

私が目指す「今治版ネウボラ」は、この拠点施設をもって完結するものではございません。

多様な地勢を有する今治市だからこそ、陸地部や山間部、島しょ部のどこにお住まいであっても、「等しく」子育て支援が行き届かなければなりません。

そのために、児童館や子育てひろば、保育所などを「相談サテライト」、各所の公園を「遊び場サテライト」、図書館や公民館を「育ちのサテライト」として位置づけ、市内のどこにいても「今治版ネウボラ」の支援が受けられる体制を整えているところでございます。

このネウボラ拠点施設を「子育て支援を統括する“ハブ”」といたしまして、市内全域に身近なサテライトが広が

るネットワークを構築し、「まち全体で子育てを支える」そんな今治を実現してまいります。

　少子化対策の分水嶺とされる2030年まで、あと数年でございます。ここが、少子化の流れを反転できるかどうかのラストチャンスでないかと思っています。
「今こそ 脱･衰退へと大きく舵を切るとき」
その強い危機感を持って、これまで「今治版ネウボラ」を強力に推進してまいりました。

　「今治で子どもを産み育てたい」、そう思っていただける“子育ての理想郷”を目指し、今日この日を新たなスタートといたしまして、「今できることは全てやる」覚悟で、市民の皆さまや事業者の皆さまのご協力、ご理解を賜りながら、子どもたちの未来、そして今治の未来のために、引き続き全力で取り組んでまいります。

　私からは以上でございます。